



カジノを止めた市民はノース・ドックへの米軍揚陸艇部隊配備も許さない 飛鳥田市政時の「戦車阻止闘争」 に学ぶ5・7講演会

1月12日、日米安全保障協議委員会において、瑞穂ふ頭のノース・ドックに米軍混成揚陸艇中隊(13隻、280人)を新たに配備する合意がされました。中国を敵視し、「台湾有事」を挑発する日米軍事一体化を飛躍的に強化する戦争準備の一環で、事あれば横浜が「攻撃目標」になるリスクを負わせられかねません。ノース・ドックは、横浜市、市会が「横浜港の中心に位置し活力ある横浜を担うポテンシャルを有している」として、早期全面返還を求めてきた米軍基地です。

いま、山下ふ頭の新しいあり方を全市挙げて議論しています。それを根底から覆す日米政府の「合意」押しつけは、市民として黙っているわけにはいきません。カジノを止めた時のように、「勝手に決めるな」と声を挙げ、立ち上がりましょう! 1972年8月、飛鳥田市長は「道路交通法」の「重量制限」を楯に、市民と一緒にノース・ドックの手前で米軍戦車を止めました。市民自治、地方自治の力を発揮すれば、強権的な国政をストップできるという先例を示してくれました。

「戦車輸送阻止」闘争を横浜市従労働組合の支部役員として経験された「生き証人」上林得郎さんにお話を聴き、闘いの糧にしましょう。

5/7 午後1時半～4時

横浜市健康福祉総合センター8F室

JR桜木町駅、地下鉄桜木町駅下車5分

講師 **上林得郎** (神奈川県地方自治研究センター元理事長)

主催 **ヨコハマ市民自治を考える会 / 新年度予算検討部会**

連絡先 **090-8647-4942(中村)**

資料代 **500円**